



文学部 子ども学プロジェクト 第26回 公開研究会

2009年12月8日(火) 17:00~19:00
総合研究棟 N101教室にて

愛知派遣村の支援活動

「貧困と排除に取り組み民間団体へのフィールドワーク」

概要

2009年は、仕事と住まいを失った方を支援する東京・日比谷公園の「年越し派遣村」で年が明けました。年越し派遣村は、日本にはないと思われてきた「貧困」を可視化させ、日本社会に大きな衝撃を与えました。しかし、こうした活動が、相談者や参加者や地域社会等にどのような影響を及ぼしているのかについては、実はほとんど調査・研究されていません。年越し派遣村はその後6月に閉村されましたが、現在、「派遣村」活動は全国各地に広がっています。本報告では、このうち、派遣切りされた非正規労働者が全国最多の愛知県で展開されている「もう一つの派遣村」の背景・構造・意味世界に迫ります。そして、全国的な動きを踏まえつつ、包摂的な社会のあり方について検討します。

報告者：大山 小夜 (おおやま さや)

金城学院大学人間科学部准教授(社会学)、
愛知派遣村実行委員会運営委員。
1998年より多重債務者自助組織の調査を開始。
09年、第60回関西社会学会大会奨励賞受賞
(題目「日本の多重債務運動と改正貸金業法」)。
現在は、国内関係者らとともに、多重債務問題が深刻な
韓国、台湾などアジアでの法律家・市民ネットワークづくりに
関わっている。95年奈良女卒。

